

日中友好協会埼玉西部支部主催 講演会

正確な歴史認識と日中関係

未だ終わりの見えないウクライナ侵略の中、昨年は日中国交正常化 50 周年の記念の年でもありました。『日中平和友好条約』の精神とは真逆の暮れに出された『安保 3 文書』、軍事ブロックに参加し中国封じ込めの一翼を担うことが明示されていたのではないのでしょうか。

講師の井上久士氏は 90 年前の日本の侵略戦争における住民大虐殺事件の出発点となった『平頂山事件』研究の第一人者です。

今回の講演では、冷静に出来るだけ客観的に過去を振り返り現状を判断することの必要性をお話し頂きます。

「新しい戦前」にしないためには何が大切か考える場にして頂けたらと思います。

講師：井上久士 氏



講師紹介

- ・東京都出身 1950 年生まれ
- ・歴史学者
専門は中国近現代史
- ・日中友好協会会長
- ・駿河台大学名誉教授
- ・著書に『平頂山事件を考える』(新日本出版社)『中国河北省における三光作戦』(共著大月書店)他多数

日時： 5 月 20 日(土)

会場： ウェスタ川越 2 階会議室1・2

13:00 開場 13:30 開始 16:00 終了予定

参加費： 500 円

会場： ウェスタ川越

J R 川越線・東武東上線
「川越駅」西口徒歩約 5 分

西武新宿線
「本川越駅」徒歩約 15 分

会場地図



連絡先：埼玉西部支部平松 049-242-3066